

特集 終戦から 80 年 —

いま、届けたい声

昭和20年8月15日に第二次世界大戦が終結してから、今年で80年の歳月が流れました。また今年は、本市が「非核平和都市宣言」をしてから20年という節目の年でもあります。

戦争を体験した人々が少なくなっていく中で、私たちにできることは、戦争の記憶を記録として受け継ぎ、二度と同じ過ちを繰り返さないようにすることです。そのためには、歴史を正しく知り、深く考え、次の世代に語り継いでいくことが大切です。

終戦から80年という節目の年である今、一人ひとりが平和の尊さについて改めて考え、心に刻む機会にしてみませんか。

写真 新宮町の新瀬川を舞う螢。夜の静寂の中を舞い儚く消えていく光は、しばしば人の魂に例えられる

開戦、日本が歩んだ道

昭和14年9月1日、ドイツがポーランドに攻め込んだことをきっかけに、ヨーロッパで第二次世界大戦が始まりました。一方、日本は昭和12年に始まった日中戦争が長引き、アメリカやイギリスなど対立を深めていました。資源を求めて東南アジアへの進出を図った日本は、次第に欧米諸国との関係が悪化していきま

す。そして昭和16年12月8日、日本はハワイにある真珠湾を奇襲攻撃し、太平洋戦争が始まりました。この戦争は約3年9か月続き、日本はアメリカやイギリス、中国などと戦うことになりました。

戦争が長引くにつれて、国民の生活は苦しくなっていました。食べ物や生活用品が足りなくなり、政府は配給制度の対象を拡大して、さまざまな物資を国民で分け合うようになりました。また、空襲に備えて防空訓練が行われるなど、人々の暮らしにも大きな影響が出ました。

紙のまちが見た戦争

昭和17年6月、日本はハワイ北西沖のミッドウェー海戦でアメリカに敗れ、空母4隻と多数の航空機を失いました。戦局が厳しくなる中、国内では国民が戦争を支えるためのさ

終戦、平和への歩み

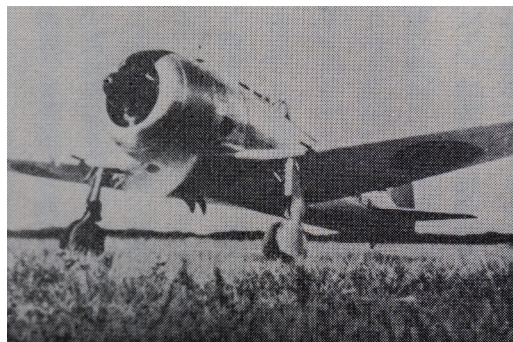
昭和19年、アメリカは本格的に日本本土への空襲を始めました。昭和20年3月10日の「東京大空襲」では、東京の下町一帯が焼け野原となり、約10万人が亡くなりました。更に8月6日には広島に、9日には長崎に原子爆弾が投下され、数十万人の命が奪われました。

8月14日、政府はアメリカ・イギリス・中国による無条件降伏「ポツダム宣言」を受け入れることを決定しました。翌8月15日、昭和天皇は、ラジオ放送を通じて国民に戦争の終結を伝え、第二次世界大戦は終わりを迎えました。

直接的な戦災を免れた地域でも、戦争の影響は深刻でした。多くの方が戦地に送られ、命を落としました。また、戦時中から続く物資不足により、食べ物や生活用品が手に入りにくくなり、人々の暮らしは困難を極めました。

戦争は多くの命を奪い、また人々の生活や心に深い傷を残しました。その記憶は今も語り継がれています。次のページでは、戦争の体験者や遺族、平和学習をした小学生の声を紹介します。

異なる世代から語られる声に耳を傾けながら、今の平和、そしてこれからの平和について考えてみませんか。



町民募金により献納された軍用機「伊予三島号」
出展 伊予三島市史



妻鳥国民学校（現・妻鳥小学校）前の農園で勤労する児童たち
画像提供 歴史考古博物館・高原ミュージアム

紙のまちの戦争記録

当市にある戦争の記録をたどり、平和に思いを寄せてみませんか。

風船爆弾



紙のまち資料館（川之江町）

風船爆弾は、直径10メートルの和紙製の気球に爆弾を取り付け、偏西風に乗せて約9千キロメートル先のアメリカ本土を攻撃する兵器です。当地域では、風船爆弾のために376万枚の和紙が作られました。

紙のまち資料館では、当時の記録や風船爆弾の模型を展示しています。

暁部隊



三島港金刀比羅宮（三島中央）

正式名称を「陸軍船舶部隊」と言い、主に広島県の宇品を拠点に軍隊や物資の輸送を担っていました。この地域にも多くの隊員が駐屯し、民家に分宿していました。

三島中央の三島港金刀比羅宮には、戦死した隊員らに哀悼の意を捧げた記念碑があります。

神風特別攻撃隊（敷島隊）

敷島隊を偲ぶ平和の櫻



葱尾ふれあい広場（川滝町下山）

関行男海軍中佐の墓碑



村松大師堂近く（村松町）

神風特別攻撃隊の第一陣として、フィリピン・レイテ島沖の米軍艦隊に突入した「敷島隊」の関行男海軍中佐の墓碑が村松町にあります。また、同隊の大黒繁男海軍飛行兵曹長の出身地である川滝町下山には、不戦の思いを込めて河津桜が植樹されています。

戦争体験者の声



近藤博昭さん
(89歳・土居町北野)

あの日、
私が見た戦争

小学3年生の春、土居町北野の自宅近くの線路で、貨物列車が戦闘機に銃撃されているところを目撃しました。あの時の恐怖は、今でも鮮明に覚えています。

私は兵庫県鳴尾村（現・西宮市）で、警察官の父と専業主婦の母の間に生まれました。戦況が悪化するにつれ、兵庫県でも空襲警報が鳴り響くようになりました。防災頭巾をかぶり、家の隣にあった防空壕に避難する生活を送っていたある日、戦争で家系が途絶えることを恐れた両親は、私1人を土居町北野に住む祖母の元へ疎開させました。

転校先の関川国民学校（現・関川

小学校）では、運動場でサツマイモを栽培していました。駐屯していた曉部隊の兵隊さんに、収穫した大きなサツマイモを届けたことを覚えていました。

疎開した翌年の昭和20年3月、自宅近くを走る貨物列車をアメリカ軍の戦闘機が銃撃しながら追い掛ける場面に遭遇しました。銃口から火を噴きながら低空で迫ってくる戦闘機を見た瞬間「撃たれる!」と思い、とっさに家へ逃げ込みました。列車はトンネルに逃れて無事でしたが、線路沿いの家が流れ弾を受けて焼けました。

その年の8月15日に終戦を迎えました。担任の先生が「戦争に負けた」と、声をあげて泣いていました。

今の日本は、本当に平和で豊かになりました。でも、世界では今も戦争をしている国や地域があります。戦争体験者として、同じ過ちを繰り返してはならないと強く思います。その思いを少しでも子どもたちに伝えていきたいです。



銃撃を受けた列車が走った線路。奥にトンネルがある（土居町北野）

遺族の声



市遺族会代表
石川秀光さん
(72歳・中曽根町)

平和を願う
2つの声

遺族会は、戦争で家族を亡くした遺族の救済や助け合いなどを目的に設立された全国的な組織です。遺族への生活相談や戦没者を慰霊する式典への参列、慰霊碑の保全などの活動をしています。

合併前の旧市町村にあった遺族会が四国中央市遺族会になって今年で22年目を迎えました。1074人いた会員は年々減少し、現在では471人になりました。時の流れに少し寂しさを感じる一方で、新たな戦争により遺族が増えていないことに安堵しています。

遺族として、終戦から80年という節目の年に思うことは、「2つの声」

に耳を傾けてほしいということです。1つは遺族の声です。私も若くして亡くなった2人の叔父のことを母から聞き、より深く歴史を学ぶことができました。

もう1つは戦没者本人の声です。愛媛県護国神社の「祈念史料室みゆき」には、戦没者が家族に宛てた手紙などが数多く展示されています。今日の平和の礎となった人たちの声を聞き、祈りを捧げるとともに、平和の尊さを感じてください。

「戦争を起こさないためにはどうすればいいか」、「万が一戦争が起きた場合に、日本の国柄と領土、そして歴史を守りながら、どうすれば速やかに終わらせることができるか」。戦後80年という節目の年に、耳を澄まして2つの声を聞き、一緒に考えてみましょう。



愛媛県護国神社「祈念史料室みゆき」（松山市御幸）
画像提供 祈念史料室みゆき

小学生の声



三島小学校6年
山本美咲さん
(11歳・三島宮川)

広島
の修学旅行で
学んだこと

戦争は自分には関係のない話だと思っていました。しかし、修学旅行で語り部さんの話を聞き、黒い雨が降ったことや多くの建物が壊れたことなど、語り部さんの目に焼き付いた光景が私にも見えた気がしてとても怖いと感じました。学校の平和学習では、グループで実際にあったことをまとめたりして、学習を深めていましたが、修学旅行に行ってもっと自分事として戦争を考え、学ぶ必要があると思いました。

広島平和記念資料館に展示されていた溶けた衣服や三輪車を見て、原子爆弾の恐ろしさを実感しました。また1発の原子爆弾で、とんでもな



原爆の子の像（広島平和記念公園・広島市）
で平和学習をする三島小学校の6年生

い数の人が死んでしまったことを知り、もし今世界にある核兵器が使われたら、この世界はどうなってしまうのだろうと思いました。核兵器は絶対に無くさなければならぬと感じました。

修学旅行での学習を通して、戦争で悲しい思いをする人を無くすためには、世界中の人々が周りの人を気遣い、協力しようとする思いを持つことが大切だと感じました。今世界で起きている戦争のニュースを見ると、「自分と同年代の子どもの命が奪われてしまうかも」と、とても悲しい気持ちになります。

私は、みんなが笑って安全に暮らせることが平和の証だと思っています。友達や家族の命を大切にできる人になり、素敵な仲間をたくさん作って、平和な世の中を実現したいです。

平和祈念パネル展を開催します

戦後80年、非核平和都市宣言から20年という節目の年に、戦争の記憶や核兵器の恐ろしさに改めて目を向ける機会として、写真やパネルなど約30点を展示します。

¥0
FREE
申込
不要



場所・日時		
土居窓口センター	8/ 4(月)～ 7(木)	8:30～17:00
市民交流棟 1 階	8/ 8(金)～11(月・祝)	〃
金生公民館	8/12(火)～15(金)	〃

問い合わせ先
総務調整課 28-6002

慰霊塔を開帳します



慰霊塔
(中曽根町 三島公園)

問い合わせ先
生活福祉課 28-6023

日時
8/15(金)・16日(土)
8:30～12:00

慰霊塔の中には、1000余柱の位牌が納められています。開帳日には中に入って追悼の意を表すことができます。

市内には、戦争で命を落とした方々を慰め、平和を祈る平和像や慰霊碑、英魂碑が建立されています。平和の礎となった尊い命に追悼の意を表し、平和への誓いを新たにしませんか。



平和像
(川之江町 城山公園)



英魂碑
(土居町入野 すずきヶ原)